

【第2回人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録】

4 議事

(1) 人吉球磨定住自立圏共生ビジョン懇談会でまとめたテーマについて

■テーマの②「相良藩の歴史をストーリー化・・・観光協会の統一」

★具体的取組「日本遺産をテーマにシンポジウム」について

井田会長「前回の懇談会で出ました八つのテーマの内、まず、②の“相良藩の歴史をストーリー化・・・観光協会の統一”というテーマについて、皆様の御意見を賜りたいと思う。このA3 判の資料の右側に、前回整理した具体的取組という事項が書いてあると思う。②のテーマについては“日本遺産をテーマにシンポジウム”から、四つの具体的取組ということで前回整理されているということなので、それらの具体的取組について一つ一つ再度、情報を共有化していこうと思うのでよろしくお願いします。基本的には各テーマに参加された委員の方々に補足説明をいただきたい。あるいは委員の方々がイメージしている具体的取組といったものはこういうものだ。というのを御紹介いただいて、その他の委員の皆様の考え等を拝見できればと思う。それでは②のテーマに関わられた委員の皆様に補足説明をいただきたい。」

鳥越委員「前はテーブルごとに分かれて、私がその書記をさせていただいた。どなたが発言されたのかというのは記録していないので、そこはなかなか難しいと思う。前回あのテーブルに誰が座っておられたか事務局は把握しているか？」

事務局「鳥越委員、竹原委員、溝下委員、島巻委員です。」

鳥越委員「いろんな話しの中で出てきたのがあれ。私が記憶している範囲では、まさに今週末にあるフォーラム的なもの。こういったものを、『地域住民にも域外の方にも知らしめるために、たくさん行っていく必要がある。』という意見が出たことは記憶している。」

文化部会「このシンポジウムについては、日本遺産に関して、認定に伴い文化庁から補助金を頂くことになっている。これはその補助金を活用してするもの。文化庁の補助金決定が7月の頭だったので、大急ぎで計画し、その計画の中で困ったのが、講師・パネリストの先生をどなたにするか？ということがまず最初だった。その辺が固まるのが約1カ月掛かって7月の終わりくらいだった。今回の日本遺産フォーラムの趣旨としては、地元、人吉球磨の方々に日本遺産に認定されたことの意義、それから人吉球磨にはどれだけ文化財があるんだといったことを、皆さん方に情報共有として知っていただきたいということ。これはたぶん皆さん方が思っておられることかなと思う。今後はこういったものを人吉球磨の外に情報を発信して、人吉球磨にたくさんのお客さんが文化財を見にきていただいて、地域の活性化に繋がれば、と考えている。今回は、最初にも申し上げたが、地元の方々に知っていただきたいということが主題。今後、いろいろなことをやっていくと思うが、人吉球磨の皆さんが“日本遺産の案内人になる”ということで、このフォーラムに参加していただきたい。」

溝下委員「先日、あさぎり町でもシンポジウムをされた。見学会と翌日がシンポジウムだった。今年はフォーラムということで、概論的なことをされると思うが、毎年テーマを絞って、今年は建築、仏像、民俗芸能をやろうとかということで、大学の先生たちに協賛していただいて、夏休みに見学会とシンポジウムを一泊でということで、いろいろな所から来ていただければいいのだが、そういったテーマごとに毎年できればいいなと思う。」

文化部会「今言われたことを、お聞きしながらどういうふうにしようかと思ったが、というのがこの日本遺

産そのものの捉え方だと思う。いわゆる『日本遺産を広く一般の方々までに知っていただく。』ひとことで言えば『観光に使う。』ということなのか？今言われたように、若干、文化財の学術的な意味。もちろんそちらの方も大切。私どもとすればその辺のところを、一番いいのは両方ともやればいいのだろうが、その辺のところを今後、やり方としていわゆるこの定住自立圏の考え方として、『どちらの方に重点をおくべきなのかな？』というふうなことを、今のお話を聞きながら思ったところ。もちろん私どもは教育委員会なので、本来であれば学術的な方に意味をおいてすべきなのかなと思うが、なかなかやはり、日本遺産との両立ということもあるので、正直ちょっと悩ましいと思いつつ、今現在の仕事もしているところ。」

鳥越委員「ゴールで“観光商品を開発する”と書いてあるが、今言われたように、学術的なシンポジウムが人吉球磨である場合も、よそから人が来られるとお金を落としていただくことができる。それで、それは商品になり得ると思う。なので、それをやっていかないと、志のある人だけで今やっているような状態、文化財とかいろんな地域の祭りごととか。かなり人口も減って廃れていくと思うので、そうならないためによそのお金と人を呼んでくるということだから、ぜひ一緒にやってもらってもいいのかなと思う。そこに観光振興課と歴史遺産課が並んでいるというだけで、素晴らしいことだと思う。」

井田会長「今回のフォーラムには補助金が出るのか？」

文化部会「私が思うに、文化庁は非常にお堅いところであって、『これとこれじゃないとだめ。』というところがある。今回は日本遺産ということで補助金を頂くが、もちろん私どもの腕の見せどころというのは、いかにしてその補助金の対象になるようにしながら、ちょっと若干違うことを少し含めてやるのかな、ということかなと思う。できるだけ補助金をもらえるような形で、いろいろなことをやって、人吉球磨の活性化に繋がっていければと思う。」

井田会長「日本遺産は文化・学術的な側面もあるし、観光資源として捉える事もできる。かつ、フォーラムやシンポジウムについてはシリーズ化できる可能性がある。かつ、人吉球磨地域に点在するわけだから、開催地も動かすみたいな形も考えられる。フォーラムやシンポジウムの開催と運用面についても、いろんな考えがあると思うので、そういった面も含めて。かつ、現地視察の1泊2日といったコース巡りを作れば、観光資源としても活かされるといったことになるので、そうしたものを今後、より具体的に実行可能なプランを考えていく。といった方向性がとれるのではないかなと思う。」

★具体的取組「地域おこし企業人として観光のスペシャリストを呼ぶ」について

鳥越委員「行政の職員の方は、定期的に人事異動で代わる。みごとにスペシャリストになった方が、全く関係ない部署に行かれるのが常なので、そういう意味で、地域おこし企業人として、今回活用できる補助制度があるので、広域観光に関することをやっていただく人を呼んだらどうかということ。広域行政組合に広域観光課ができていますので、そこに雇った方がいいのかどうかは分からないが、そこを申請をしたらどうか？ということ。」

井田会長「地域おこし企業人という制度があるので、それを実現した形で広域観光を、ということか？」

鳥越委員「地域おこし企業人というのはよそから来ていただく制度。『今回は五木村に来て下さい。』とか、『水上村に来て下さい。』と呼べるのではないかな？ということ。」

事務局「今、御意見のあった外部人材の活用といったものが総務省の制度であるので、以前、共生ビジョン(案)の段階で説明と御意見も頂いていたが、平成29年度から人吉市で、2名分の予算で事業費を共生ビジョンの中に入れている。当時の人材育成部会の総務課長から『人吉市がG空間情報を

使った町おこしや、観光面でも今後必要だと思われるので、そういった面で人材を選びたい。』というような考えでいるようである。」

井田会長「共生ビジョンに外部専門的人材等活用事業という項目で挙がっているのですが、それが広域観光の面で利活用できないか？というのが、このテーマに沿った一つの方法ではないかと思う。今、観光部会で広域観光に精通されている方は居るのか？」

観光部会(人吉市)「事務局が広域行政組合に移り、人吉市からも出向し、職員3名、兼務の上司が1名の4人いる。まだできたばかりで、専門的になったところ。それまでは人吉市の方が事務局になって、広域行政組合や人吉球磨が一緒になってやっていた。」

井田会長「この事業を活用して取組もうと思えば…」

事務局「やはり、『観光面で。』という御意見なので、それは今後、担当部会の方でも勘案されるかと思う。」

井田会長「これは、既にある事業の中身を、より具体化していくということになるのか？」

事務局「人材育成部会で、観光に特化したところで検討していくと思う。」

★具体的取組「情報を共有化してそれぞれの役割分担をする」について

鳥越委員「これは、10 市町村の行政の担当課もそうだが、それと、今度、組織が変わったので、人吉球磨広域行政組合に広域観光課というのができて、熊本県球磨地域振興局の総務振興課が観光を担当している。人吉市や五木村の観光協会など、観光関連の民間団体と行政、これが情報を共有していないので、観光イベントが同じ日に重なったり、いろんな所が同じようなことをやったりしているので、『そうならないようにしましょう。』ということだったと思う。役割分担と書いてあるのは、広域行政組合の広域観光課がやることと、球磨地域振興局の総務振興課がやることというのは、割と重なりやすいので、そこが重ならないようにした方がいいし、人吉温泉観光協会と人吉市の観光振興課がやるべきことの役割分担。そういった意味で“役割分担”というふうに書いている。『人もお金も限られるので、その情報共有化した上で、それぞれの役割を担っていきましょう。』ということだったと思う。」

井田会長「これは、多くの自治体でこれまでの経験で、事業の重複が多々あるかと思う。とりあえずは、関連する自治体が一度集まらないとどうしようもない。集まって、事務分掌の『私たちはこういった内容の仕事をしています。』と、それをつき合わせて、もしそこで不必要な重複があれば、どちらかにすればよい。そうすると資源が余るので、その資源をまた違う所に振り分けられる。といった形になる。まずは主体で事業の重複を無くすことが優先だと思う。かつ、県と広域行政組合は広域観光なので、当然、人吉球磨全体を網羅する。各観光協会は自分のエリアの観光になる。そうすると、各エリアの観光協会は自分のスケジュールを挙げて、それを広域行政組合なりが一旦整理して、それを県と打合せ・調整するといった形になると思う。定期的に各観光協会あるいは市町村の観光課の担当と、そうした広域の情報を集めている所が、意見交換なり、情報を共有化する場を設けるか、場を設けるのが時間的に難しいのであれば、端末などを整理して、毎月必ず一日の日に、“今月に関する観光の情報”を全部流すこと。確定情報あるいは1〜3 か月後の青写真の情報。そうした形で、『情報交換するのはこの日だ。』というのを、まずはその共有から始めて欲しい。一堂に会する場はないのか？」

観光部会(広域行政組合)「広域行政組合の方には、市町村の観光担当者並びにくま川鉄道などの交通機関が集まっていたくような会議の場は設けている。」

井田会長「今まで観光に関わっている主体が？人吉温泉観光協会であったり？」

観光部会(広域行政組合)「そこまではない。」

井田会長「恐らく、人吉球磨地域から観光に関する情報発信をしているホームページは、バラバラにあるのではないと思う。基本的には、『人吉球磨の観光情報は、ここを見れば全部網羅しています。』といったものが、通常、無いというのはおかしい。」

観光部会(広域行政組合)「イベント調査をされているかどうかは分からないが、県の球磨地域振興局の方から、市町村のイベントや催しの月ごとのそういった一覧表を、市町村の方に流されていると思う。うちの方も当然、そういったスケジュール等を頂いている。」

井田会長「これは観光に関することなので、まず内部で情報を共有化して、統一した情報を発信しないと意味がない。よその者は、分からない事はホームページを見る。温泉であつたり観光協会であつたり、県があり市がある。そうすると、もちろん違う部分もあるが、ほとんど同じだと思う。だから、人吉球磨の観光は、このサイトですよといったものがあれば…ジャンルがあるのはいいが、統一化した方がいいと思う。『うちもやってます。』、『あそこもやってます。』では、観光の情報は外部の人が見るためのツールなので、窓口がいっぱいあるのは煩雑になる。熊本県なら県庁がホームページを作って飛ばしているかと思うので、人吉球磨の細かい情報は当然、地元の人が良く知っていると思うので、そこに、単にイベント開催情報ではなくて、観光案内人などの説明の映像などを載せるとか、そういうことをすれば、地元の発信ということになる。まず、担当した委員の方々から伺っているが、観光に関わる情報を取り扱っている主体が、まずどれだけ主体がするかということから、きちんと把握していただくことだと思う。とりわけ、ラフティングとかやっていると、『全然こっちは知らないことを向こうではやっている。』という情報が出ている可能性は多分にあるのではないと思う。行政が余り把握できていない部分とか。そういった部分についても、できるだけ専門的・統一的に網羅する必要があるかと思う。今言ったように、委員の方から発言もあつたように、公的・民間的な各主体があると思うので、それらの人のネットワークとそれぞれが持っている情報を共有化するという二段構えになるかと思うので、そこで広域の分野を担当する分と各エリアを担当する分。あるいは情報を発してる観光イベントについて、『これについてはここが当たりましょう。』みたいな、当然、役割分担なので旗振る主役を決めていかなければならないと思われるので、新たに組織を作る必要はないと思うので、既存の枠組みの運用面を整理していくという形になるかと思う。これは比較的、やろうと思えば短期的にできるのではないと思う。」

黒肥地委員「文化部会にお尋ね。今、人吉市のホームページで、日本遺産関連のホームページ作成についてプロポーザル方式で募集をされている。それが先ほど言われた文化のためのホームページなのか？観光のためのホームページなのか？ターゲットとしてユーザーはどの辺を狙っているのか？それで、今の話の片付く部分もあるのか？」

文化部会「今お話があつたように、日本遺産のホームページを作ることで、これも文化庁から日本遺産の補助金の事業である。今お話を聞いた中で、ホームページがいっぱいあつてということだったが、このホームページは独立した日本遺産だけのホームページである。リンクはもちろん貼れるが、独立して作りなさいという文化庁の指導なので、観光協会のホームページと一緒にするものではない。この内容については、人吉球磨の文化財に関しての内容を網羅するが、基本的にはそういうふうなものを地域活性化、いわゆる“お客様を呼ぶ”といったことに結び付けるというふうなことが、文化庁の方からの今回のホームページ作成に関して指導されているので、基本的には、100 パーセントとは言わないが、ある程度観光的な要素を盛り込みながら、人吉球磨においていただいたら、文化財を見ながら文化財の要素の一つであるくま川下り、また、『それに関連したラフティングもありますよ。』とか、『夜は焼酎でも飲みながら人吉の夜を楽しんでください。』みたいなものを、そのホームページの中では、観光的な部分も大胆に打ち出したホームページを作ろうと思っている。それについては、現在、プロポー

ザルといったことで提案を募集しているので、皆様方のお知り合いに、もし、そういったことをされている方がいたら薦めていただき、どんどん募集いただければと思う。」

井田会長「文化庁でも、世界遺産に指定されると、かなり観光での地域活性化の要因になっていると認識しているので、たぶん、『日本遺産もそれに準じて、指定されると地域活性につながりますよ。』というふうに謳いたいと思っていると思う。そうすると財務省からもお金がもらえるので。恐らく、文化財の上に文化の上、ということではなくて、より地域に関係した形で。ただ、もちろん文化財・文化財保護あつての遺産だから、それは建前だと思う。」

文化部会「基本を踏み外さないようにして。ということ。」

鳥越委員「先ほど、広域行政組合の中に旬夏秋冬キャンペーンとか事務局が移ったという話で、旬キャンとか観光連絡推進協議会というそういったデザイン会議的なものは既にある。ただ、前回のこのテーマのテーブルに参加した人の、『会議から、そういうのがなかなか下に下りて来ない。』という話があった。なので、会長が言われたようにシステムにするのが一番良いと思う。それは対外的なシステムではなくて、サイボウズ(WEB 経由で情報共有などが出来るシステム等)とかの社内LAN的なシステムの中で共有した方が、先ほど言われたラフティングのことなども取りに行けたりする。この全体の中の④番は、今回、抽象的で分かりにくいということではなくなったが、恐らく、私が思うに、この中の 10 市町村で機能情報を共有させるとかハード面の統一とかといったのは、たぶんそこにあると思う。このテーマに参加していないから分からないが。このテーマで考えた人達のは、そういうことではないかと思う。なので、とても重要だと思う。それは観光だけでなく他のことも一緒。例えば『誘導棒が何本要る。』とか、『インカムが何個要って足りない。』といったことが絶対出てくる。そこで、予算は無いけど業者から借りたりする。それは民業的なこともあるが、例えば『人吉市で足りないから多良木町から何個借りようか。』とか、『人吉市はいっぱい持っているから五木村に全部貸して。』といった部分を共有するシステムができればできるんじゃないか？行政的にできるかどうかは分からないが、そういう意味だと思う。」

井田会長「今後、人吉球磨 10 市町村での共同作業になるかと思うので、この②の観光に関する素材の一つの試金石として、10 市町村、広域観光課も含めて、『今までとは違う運用ができますよ。』というのを実質的に展開していってもらえれば、他の分野についても、より観光に関する取組の一つの雛形として、進められる可能性もあるかと思うので、進めていって欲しい。」

★具体的役割「広域行政組合の広域観光課が中心となって、情報収集と発信を！」について

井田会長「今までの話と重複するが、一応、前回、委員の方から出た考えとしては、『広域行政組合の広域観光課というのが一つ核になるべきではないか。』という御意見だと思うが、補足はあるか？」

鳥越委員「『誰がするのか？』となるだろうから、このように書いた。」

観光部会(広域行政組合)「広域行政組合の広域観光課が中心となつての情報収集と発信というところだが、うちの具体的な取組としては、現在、スマートフォン等を活用した広告宣伝等の媒体も多くなっているということで、人吉球磨の情報発信策としてガイドアプリを製作し、そういった圏域の観光という情報の発信と周知の充実を図っているということで努めている。」

井田会長「先ほどの話と被ると思うが、人吉球磨での観光に関しては、イベントも含めて、人吉球磨の観光というものを考えるときに、やはり人吉球磨の話だから、球磨地域振興局に旗振ってくれというのは、やはりちょっと主体性がないかと思う。だから、できるだけ人吉球磨の人がやっぱり旗振って、そこにちょっと『県の方も広域的な立場から御意見ください。』で、そうしたならば、『基本的には人吉球磨内部でしますよ。』だから、そういった意味では『広域行政組合が核となつて、旗振り役をするんだ。』と。

それに人吉市等がサポートする形で組織を作る、と。広域行政組合の広域観光課が『人吉球磨の観光については私たちが旗振り役ですよ。』と。」

観光部会(広域行政組合)「そもそも、うちの組合というものは施設管理業務とかで、企画課というのはあったが、そういったことで、今ちょうど観光的な事もあって、うちの方に広域観光課というのができたが、まだまだちょっと力不足の所もあって、その辺はちょっと、うちが中心となってというのは、当然広域的な取組は行っていくが、『ちょっと重荷かな。』と思う。当時から企画課というのがある、情報発信”とか“人材の育成”と“観光の推進”という三つの柱で取り組んではきているが、まだまだちょっと…」

観光部会(人吉市)「去年の4月から課として設置してある。人吉球磨の観光推進協議会というものを球磨地域振興局に持っていて、定期的に人吉球磨のイベント情報を収集いただいて、ホームページの方にもアップしていただいている。ただ、それがなかなかいろんな所に広がっていったというのが実状なのかな？と思う。詳細についてはそれぞれのホームページに飛べばいいが、まとめた一覧というのがあるというのを、もっと私共、各市町村も利活用して、情報発信しなければならないと思う。今のところ、人吉市も職員を1人出している、一緒になって、一体となって広域観光を進めたいと思っている。」

井田会長「意見をまとめると、現状においては『広域行政組合の広域観光課が旗振るには、ちょっと重すぎる。』ということか？以前のように、広域行政組合を充実させていこうというのはないのか？」

観光部会(広域行政組合)「当然、充実はさせていきたいと考えている。各市町村それぞれの催しやイベントは、当然、従来からされているのは単独でされているだろうし、広域行政組合としては、何市町村かが協力される事業とか、広域的なものと一緒に取組を行っていく。うちとしてのスタンスはそういったことで考えている。どこまで、支援というか協力できる事業なのかの切り分けも行いたい。」

井田会長「現状においては、球磨地域振興局の方にいろいろ取りまとめてもらっているのか？」

観光部会(人吉市)「はい。それは取りまとめていただいている。だから、県と市と、広域行政組合の全部が連携しながら、そういうふうな情報収集・発信のどれが一番効果的なのか？といった部分で、情報の共有がきちんとできるのか？行政からしたら、言われたとおり担当者が代わっていく状況の中では、民間の方との強い連携が必要。」

井田会長「だいたい、観光が充実している地域というのは全部、観光協会がやっぱり旗振る。日本の多くの未発達な場合は、観光協会はどこかの市役所とか県の中に入っていて、そのうち独立してくる。なぜかという、公的部門の中に居ると、基本、宿泊などの予約業務ができない。独立して『自分たちがやっていますよ。』となると、単純に言えば全部できるようになる。したがって、できるだけ観光協会が独立して行のが望ましいかと思う。日本で考えると、どうしても行政の担当が代われれば、人が代われれば変わるし、踏み込めないこともあるので、やっぱり観光協会が中心となった方が望ましい。移行期間は当然、行政部門と協調していかなければならない。」

観光部会(人吉市)「人吉市の方は社団法人化していただいている。町村においては町村長が会長というところが多い。」

井田会長「だから、その辺の組織の話も含めて委員の方から出たように、人吉球磨全体の観光が取組めるものが組織作り。というところから、短期的にできなければ移行期間を含めて、『こういう形にしていこう。』というような青写真を作って取組んでいくというのにも必要かなと思う。②のテーマについて、サブタイトルで“観光協会の統一”となっているので、組織の統一と。市町村が合併しても観光協会

が合併しないことが、多々、熊本県内でもあるが、だいたい一つにならないとおかしい。人吉球磨が『定住自立圏で10市町村が同じベクトルを持ちましょう。』と言っているわけだから、できるだけ組織を一つにするのが望ましいかと思う。でないと、『うちは今までこうしてたから、この日はこの祭り。』、『うちもずっとこうしてたから、この日は祭り。』とずっと言っていたら、ぜんぜん『10市町村が手を結んで何かをしましょう。』という部分にならない。できるだけ組織というのは一つになった方が望ましいかと思う。そうすると、②については観光に関しての組織作りをどうするかといった部分と、現在進行形なので現状をふまえて、より効率的な運用の仕方が有るか無いか。そうした部分についても検討して、かつ、それぞれの分野における役割分担だから、旗振り役、『この分野についてはここが旗振り役をするのが望ましい。』という部分でそれらを検討して、具体的取組の一つ目の★の日本遺産については週末フォーラムが開かれると。フォーラムをいかに持続的なものにするのかと、あるいは文化庁の方向にも沿った形で、観光面での取り込みといった部分も含めて、当然観光面になると、こうしたイベントと協調して地域の商工会等も巻き込む必要もあるかと思うので、それらを巻き込んだ形で、さっき言った学術的なフォーラム、プラス1泊2日のツアーを組むなどの話が望ましいと思うので、それらについて具体的な取組を考えて欲しい。考える際に、とりあえずは現状を無視して、『私はこういった組織がベストである。』というのをまず考えて欲しい。行政の方はどうしても、これは仕方のないことだが、現状を前提条件とするので、そうするとなかなか新しい組織は作れない。したがって、この定住自立圏は人吉球磨10市町村で協同しましょうということなので、人吉球磨の観光について取組むのであれば、こういった組織、振興局もあり人吉市もあり広域行政組合もあり、各町村の観光もあり、観光協会もある。そうした中で、『こういった組織で取組むのが一番望ましいのではないか？』というのをまず考えて欲しい。そうした中で、実行可能な部分、理想郷等を作る。理想郷に近づけるために、何が制約になっているかというのを一個ずつ見ていって、解消できる制約状況であれば解消するような取組をする。それが具体的取組になる。解消できないとすれば、本当にできないか、もう一回精査。本当にできないとすれば、それはもうじゃあ無理。解消できないということを皆さんで共有化する。もし、『それはできるんじゃないか？』と言う人がいれば、その人の意見を聞けばいいだけの話。だから、最初から今できることを積み上げていこうではなくて、理想郷を作ってもらって、そこからフィードバックするような形で、じゃあ、直近で何するか？1~2年後に何するか？という形でスケジュールにしてもらえればという風に思う。観光だから、いろんな素材が人吉球磨にあるから、何かを一つイメージしてプランを作ってもいいし、あるいは、以前、話のあった『ひな祭りを既概念として、1年間、旬夏秋冬ひな祭りでは何かできないか？』という話もあったが、それに『球磨焼酎を加えて何かできないか？』そういった具体的なものを組み込みながら検討して欲しいと思う。その他、御自由なお考えがありましたら、発言をお願いしたい。」

黒肥地委員「今、会長の話を聞いて、理想として考えたときに、私も一般社団法人人吉温泉観光協会のメンバーの1人として、理想とすれば、『人吉球磨に遊びに行きたいんだ。』という人たちが、そこに窓口があって…私は南島原市を視察に行ったが、修学旅行の集客をするために農家民泊を広くやっており、そこを“南島原ひまわり観光協会”というところがマージンを取って斡旋しており、今、200軒くらいで農家民泊させているという成功事例を見に行った。私は人吉商工会議所だが、観光案内人協会はうちがしている。と鉄道案内。案内人についてはうちに電話がある。すると隣は違う、と。そういう『どこに相談していいか？』というところが分からないので、今、観光協会に限らず、どこか一つの窓口があって、そこにすれば水上村にも行ける。湯前町にも行ける。人吉市にも行ける。でないと全部人吉市に来て、泊まりだけは一緒だと。といういろんな現状を打破するためには、それが一番理想かなと思ったときに、人吉温泉観光協会でそこを担えばよいが、残念ながら人吉市から補助金を頂い

ている関係で、その枠を超すというところにかかなりの制約が入ってくるのかなというところがあるので、極端に言えば、広域行政組合から全ての補助金をもらった観光協会があるとするならば、まさにこの統一なのかなという理想で、そこの窓口で全てが受けるというのが理想かな、と会長の話を聞いて、そう感じたところ。」

井田会長「当事者がおられるので、『こういう体制があったら、もっと人を集められるんじゃないか。』と。私もいろいろ仕事で青森とかに行った事があるが、ここに連絡すれば、『視察から民泊から何日行きますよ。』と。4泊5日で行ったんだが。毎回、地元ではとても有名な養豚場の瀬川牧場とか。一軒一軒コースが設定してもらえる。そういうのがあると、やはり行く方も『あそこに連絡すると全部取り扱ってくれるよ。』『パッケージ作ってくれるよ。』というところにはやはり人が来る。だからできるだけ、皆様いろいろ取り組まれて御苦労も大変していると思うので、『こういった組織になったらもっとスムーズに行けて、もっと人吉も儲かるんじゃないか？』と。いうことが多分にあるかと思うので、そうした知恵を出してもらえればというふうに思う。部会の方としても、そうした部分、『もっとお金を稼げはしないか？』という視点で考えていただければと思う。」

■テーマの⑥「それぞれの自治体で行われている祭り・花火大会等イベントの集約(統一・大規模化)」について

井田会長「具体的取組は三つほど挙げられているが、先ほどお話した部分も多々あるし重複する部分もあるかと思うので、ひっくるめて全部一本化する。頭二つについては、先ほど話した部分とはほぼ重複するかと思うので、こうしたイベント等について、『これまで10市町村で慣習的に行われてきたイベント・お祭り等について重複等が無いようにしましょう。』と。先ほど言った関係当事者が情報を持ち寄って。観光情報だから少なくとも半年前、かなり前に決まっていると思うので、それが重複すると、私からしたら非常に不思議なこと。仮に花火大会が重なったとしても変な話。例えば、数年前から始まった熊本城マラソンは人吉球磨にぶつけてきた。変な話だが『何でぶつかるの？』と。そういったことは熊本でも普通にある。チャーリーさんのカントリーゴールドにぶつけるとか。不思議だが。こういうのは、本来重複するはずがない。だから、この⑥に挙げられていることについては、10市町村個々に今までやってきているけれども、『なにがしら連携してできるものがあれば、連携した方が相乗効果が出るんじゃないですか？』といった意見が以前強かったという気がする。もちろん重複する事があれば、それはあってはならないことなので、それは事前に調整が必要だと思う。それらの調整等については先ほどの話の中と被るので、行政部門と観光協会等それぞれの関係当事者が情報共有する場を設けると。運用面で改善していただきたい。三つ目は、以前、懇談会のお話でいただいたかと思うが、再度、具体的にどういったものをイメージすれば良いのかということで、話し合いに参加された方々から提案・御意見を頂きたい。」

本山委員「“地域性を大切にする”というのは、その特産物であったり、信仰深いので人吉球磨はお地蔵さんのお祭りとかいうのは地域でたくさんあるが、大きなイベントを縮小したらいいんじゃないかという話だった。あと、さっきの話でちょっと言いたかったが、言っても良いか？さっき、一つの部署でやれば良いという話があったが、広域行政組合は三十三観音めぐりがとても上手なので、みんなをまとめている部署であるので、ぜひ頑張ってください、もし人手が足りないのであれば、人吉市の方からもっとバージョンアップして、ぜひ頑張ってもらいたいと思う。私はいつも三十三観音に参加しているがいつも感動する。地元に住ながら、意外と村の事も知らないが、広域を廻るというのはすごく感動的。ぜひ頑張ってもらいたいと思う。」

観光部会(人吉市)「言われるとおり、重複するのが花火大会などだと思う。それぞれ10市町村ある中では地域づくり的な部分もあるし、地域経済や文化、会議所であったり商工会、主催者がそれぞれあって、『その地域おこしという名の側面もあるのかな?』というふうに考える。だから、その辺を一体化するというのは、なかなか現状では、『今のところはまだ難しいのでは?』という状況と思っている。ただ、知ってのとおり三十三観音めぐりにしても五木村には、確か無い。無いが温泉は全部の10市町村にはある。食文化とか、球磨焼酎とか、いろいろなここに書いてあるとおり、つつじであったり、さくらであったり、人吉は梅であったり花をテーマにするとか。その辺が連携して年間のスケジューリングで滞在型観光が進められればと思う。それが定住自立圏の中に埋め込んでいけたらと思う。旬夏秋冬キャンペーンではひな祭りが一つ挙げられているが、全ての事業をそういうふうな取り込みをしてもいいじゃないかと考える。」

井田会長「共生ビジョンにも、産業の振興の中に観光の振興ということで2項目挙げられているが、その中の一つが旬夏秋冬キャンペーン。もう一つに湯前自転車道が挙げられているが、基本的には三十三観音であるとか、各10市町村でやっているイベントや祭り等についての連携。それぞれ単独でもやるが、なにがしか結び付きを持ってやらなきゃ違うと思う。だから、Aでやっているのを止めてBでまとめてやろうということではなくて、AとBでやってもいいが、今までは何の結びつきも無くやっていたのを、なにがしか結びついているという連携軸を作る。そうすることによって、単独でやっていただけではなくて、何かあるよという部分の連携による付加価値の創生というか、そうした部分は知恵だと思うので、そうしたものを具体的に掲げていけば、今ある周遊観光の中に入れることもできる。現在ある協定の内容は、ある程度広い範囲の広義的な概念で書かれているので、それを具体的なものとして、『狭義の意味ではこういったものをしますよ。』という形で、部会の方で、狭義の意味での取り組み内容という形で示していけば、新たに事業を立てなくても、現在の協定の内容で対応可能であろうというふうに思うので、そこで具体的な取組を決めて、じゃあ、それをするためにはコストが必要であれば予算立てしていくという形になるかと思うので、今のひな祭りにしても三十三観音にしても、そうした形で具体的に出していく。この一覧の中にもいろいろ出ているが、そうした花、秋の花、春のつつじがあつて、桜があつてと、当然、秋もあるだろうという形で、なにがしか、そうした中では繰り返したが、バラバラであったものを何か関連付ける。これは『地域間で関連付けることと、当然、地域内でも関連付けることもできるでしょう。』ということで、地域間で関連付けできることは10市町村で取り組むといいことだから、今回のプログラムの中の具体的な取組として掲げるということ。そうした地域間の取組を具体化するために、『じゃあ、今の組織で大丈夫ですか?』となったら、繰り返したが、望ましい組織を考えておくということになるかと思う。」

竹原副会長「この“地域性を大切にする物は残してよいと思う”というのは、人吉球磨は美味しい米があつて、そして素晴らしい景色があつたり文化財がいっぱいあるから、なんというか、球磨焼酎は有名。焼酎祭りなどもあつて、そういう焼酎祭りなどは残して、こういう美味しいお米が無い所は、麦とかからいも焼酎とかそういうものがあるが、人吉球磨にはこういうおいしい物がある。だからこういう花火大会とか一緒にしたらという時に、人吉市は人吉市、多良木町は多良木町で大体500万円くらい花火を揚げる。人吉市も一千何百万円とか使うと思う。翌日はあさぎり町で揚がっている。次は湯前町といって、よく気付く。それぞれに各町村で花火大会もバラバラにしている。だから、それを一つにまとめてもらうのは、広域行政組合の力が大きいと思う。誰かがまとめてくれないと、これは統一できないと思う。各町村バラバラしている。だから、例えば人吉花火大会の時に、人吉花火大会は8月15日というのは有名なこと。だから、多良木町の人たちが4人くらい加勢しに来る。錦町からも加勢しに行く。来年は

多良木町で花火大会を揚げる。2000 万円くらいの花火大会を揚げてもらおうとか。スポーツ大会はその点“郡体”というのがあって、各町村の人たちが全部寄り集まって、役員をしてスポーツ大会をやっていて、それから選ばれた人が県体に行く。球磨郡は、陸上が毎年熊本県でも優勝しているから、そうやってしていけば、結果はいいものになると思う。スポーツ大会でも、やはり、それをまとめてもらうということは非常に大事なことで、広域行政組合が旗を振ってもらって、各市町村の観光協会とかそういう文化協会とかそういう人たちを統一してもらって、人吉球磨のストーリーを作って欲しい。例えば、水上村の猫寺は、相良藩に謀反を起こしたということで、相良藩の人が打ち首にするということで、相良藩の家来が謀反が無かったということで、免田の庄屋で焼酎をたくさん飲みすぎて、結局、しなくてもいいよというのが間に合わず打ち首にされて、猫寺ができて、玉垂という猫にお母さんが血を舐めさせて、御申さんから飛び込んだとか、そういういろいろなストーリーがあるから、観光協会ではないが、そういった人たちが集まって人吉球磨のストーリーを作って、人吉市は人吉市、多良木町は多良木町のストーリーがあるかと思うが、それらを統一して、人吉球磨に観光客を呼ぶためならば、そういうストーリーを作ったりしてもらったら、皆がそれに協力してできるんじゃないかな？と思う。今はてんでバラバラ。人吉市は人吉市、錦町は錦町。先日、あさぎり町で、東京大学や帝塚山大学の教授が来られて、町づくりのシンポジウムがあったが、『人吉球磨は素晴らしいですね。こんなに素晴らしくていい所は無いですよ。』と言われた。また、映画監督の紀里谷さんから『人吉球磨は素晴らしい。あなたたちはここにどっぷり浸かって、人吉球磨のいい所は全然分からないのではないですか？』と言われたこともある。私は本当に、何かを一つにしていかないと、人吉球磨はまだ合併していないから、一つでもいいからしていただきたいいつも思っている。」

黒肥地委員「3 年ほど前に、商工会議所の観光委員会というところで、各商工会の方々から情報を頂いて、人吉球磨の引き込み人というものを作って、“年間行事と旬な食材と花”という広告をA3 版で作ったことがあるが、こういうのを、また広域行政組合にお願いしたいと思う。まとめていただくようなことがあれば、産業祭とかはいわば収穫祭なので、各地で祭りがあるが、一応、その日程を決める時には、よその何かに重ならないように日程は調整しているが、10 市町村あるのでどうしても重なってしまう。この2 ヶ月くらいの間でなくてはいけないから。そういうことがあるので、『どこかで行事が集約できるようなところがあれば。』と考えている。」

鳥越委員「質問だが、花火師は同じところを使っているのか？」

竹原副会長「多良木町は有限会社津山花火。」

黒肥地委員「人吉市は西日本花火有限会社と有限会社津山花火ともう一つの3 社。」

鳥越委員「人吉市の花火大会では全然動けないものだから、楽しみに多良木町やあさぎり町に行く。それぞれあると、とてもいい。というか、観光客の方も『毎週イベントがあつていいですね。』と言われる。問題はその告知の方法なので、例えば、花火大会は花火大会だけの人吉球磨のカレンダーやポスターがあるとか。さっき言ったように、花火大会に必要な備品とかはいっぱいある。そういうのを借りるならば、お互い共有して使うとか、花火師も、共同購入ではないが交渉窓口を一本化して交渉するとか。そういうできるところからでもやったらいいのではないかと思う。」

観光部会(人吉市)「地域づくりというか、地域振興的にそれぞれのところが花火大会をしたいと思う。人吉市も温泉旅館があつて1 年前から予約をされている。といった状況。だから鳥越委員が言われたように、人吉球磨に夏来たら、どこでも花火があつているというのが周知でき、いろんな所でやっているというのが分かればいい。私たちが山江村で『ドンドーン』と鳴っているのを聞いて、初めて『今日は花火だったんだな。』というのが分かるような状況。と、人吉球磨には鎮守さんがあつて、人吉市の中

でも町内の夏祭りが毎週のごとくあっている。多子塔祭りをはじめとして30～40くらいは水天宮の夏祭りとかがあっている。非常に祭り好きな所なので、逆にそれを発信していくようなことをやっていくのがいいのかなと思う。人吉市に限らず、人吉球磨全体で。」

井田会長「観光を考える時、二つパターンがある。地域の人を楽しめればいいものと、外から呼び込むもの。私がつくづく思うのは、熊本の祭りは全て、参加する人が喜ばばいいといった祭り。外から来た人をなんとかしようというのは無い。どこに行ってもそう。アンケートを取りに12月の天草市の祭りに行ったことがある。北九州市から観光バスが来て、『伊勢えびの味噌汁が食べられます。』ということで観光客がバスから降りてきても、地元の人達が全部取ってしまっているから無い。だから、観光バスが来ると分かっているのに、なぜその人達に伊勢えびの味噌汁を振る舞わないのか？そういうのが無い。外から呼び込もうとしない。ここが唯一、博多・福岡と違う点。だから、鎮守の小さいところは地域の人を楽しむ祭り。そうじゃなくて、花火とかであれば一過性のやつだけど、『やっぱり来てもらいたい。』と。例えば、秋場にある八代市の花火大会は、けっこう人がいろんな所から来る。花火をあのくらいのイベントにしたいというのであれば、先ほど鳥越委員が言ったように、『夏の人吉の花火』といったキャッチコピーを付けてポスターを一枚作る。カラーで、それぞれの規模で写真の大きさを変えたりして分かるように。それを『一つの人吉球磨の花火ですよ。』と外に発信する。『そうじゃないんだ。内輪でいいんだ。』とすれば、内輪ですればいい。人吉球磨の10市町村の人が、人吉の残りの9市町村のところにも行くと。じゃあそのために、駐車場を確保するとか、その日だけは移動手段のバスを動かすとか。そのようなことをすれば、『勝手に来て下さい。』じゃ、どんどん車が増えて渋滞ばかりになるので、『くま川鉄道を使って下さい。』、『シャトルバスを動かしますよ。』とか、いろんな工夫をすれば、今まで余り乗らない人が電車やバスに乗るといった機会にもなる。そういうことで、イベントの時には自家用車を禁止するとか、日本はなにかと余り強気で言わない。『御遠慮ください。』とかしか言わない。今の人は利己主義だから御遠慮はしない。そういった形で、『このイベントはこういうふうにしたいんだ。』というそれぞれの皆さんのお考えがあれば、それに沿った連携にすべき。観光にしても。三十三観音についてやっぱり人吉球磨には歴史がかなりあるので、やはりもっと多くの人に知ってもらいたいとすれば、やっぱりそういったスタンスで取り組まないといけないし、外の人を呼ぼうと思えば、地元の人が『うちは観光地です。』と認識がないと絶対だめ。昭和40年に天草五橋が開通して、阿蘇と一緒にあったのに、なぜ今こんなに差がついたのか？基本的には地域住民の認識の差。もし外から呼ぶ観光にしたければ、本当に人吉球磨の人が『うちは観光地なんだ。』という思いがあるかどうか。だから、この“イベントの統一・大規模化”というのは、『人吉球磨の10市町村でのイベントにしたい。』にするものと、『いやそうじゃない。これは売れるもの。』という点でも取扱い方が変わる。ただ、いずれにおいても、この定住自立圏の協定内容に組み込むことはどちらでも可能だから、その辺の仕分けをしてみて、何でもかんでも外に出そうというのは失敗する元だから、内で楽しむ分、外に出す分というのを分ける必要がある。そうした中で内輪のものであっても、『人吉市の人知ってるけど湯前町の人知らない。』逆に、『湯前町の人知ってるけれども錦町の人知らない。』といったことが多分にあるかと思う。そういうものについての共有化をしていく。それらを共有化するためにイベントやそれぞれやっている祭り、資料にいっぱいある収穫祭、神事に関する祭りがいっぱいあるかと思う。そうしたものについても、納涼祭とかふるさと祭りいろいろあるが、それらをきっちと細かい作業になるが、分類する必要があるかと思う。」

溝下委員「言ったかもしれないが、“年間スケジュールを持ち寄って重ならないように話し合いをする”といったことだが、湯前町の秋のイベントが人吉市のイベントと重なって、また、宮崎県の椎葉村のイ

ベントとも毎年重なっているの、毎年行きたいが行けない。市長だけではだめかもしれないが、担当課長が集まって、来年度の予定、毎年してもらっていたと思うが、打合せをして欲しいということと、どこかがカレンダーを作っているところもあるし、カレンダーに打ち込むとも考えて欲しい。」

井田会長「ワードでもエクセルでもいいが、テンプレート(雛形)を作って細部に分けて、10市町村に該当する枠内に書き込んでもらうしかない。で、ランダムに挙げてくるようになると整理するのが大変になる。だから、ある程度イベントについては本部で分けられると思うので、そうした分類表を作って、それに事前に記入してもらおう。それをどこかが集約すれば、ファイルを10個持ち寄るだけなので、共通のフォーマットだから串刺しにすればいいだけ。そこで似たようなイベントが違うところに入っているとすれば、その担当者に話し合いをしてもらえればよい。できるだけ共通の枠内で。そうしないと、行政職員の方が大変なのは、情報を集めたとしても、『これは何の情報なんだ?』となってしまう。それは、ちょっとコンパクトに分かれるようになれば、行政コストもかなり減るようになるので、ソフトの面の工夫も考えていけば、ある程度こうした事前調整で、せっきくの地元の祭りなのに、よそと重なるということは極力排除できるかと思う。かつ、それぞれの各地域でやっているものについては、先ほど言ったように、外に出すものと出さないもの。それはきちんと残した方がよいだろうという気がする。」

中村委員「おくんち祭りが10月にあり、私は神社の総代として神幸行列に参加している。車押しをしてお賽銭拾いをしているが、この神幸行列が昔から、土葬していた頃の行列みたいにもものすごく静かである。前の方に神職が馬に乗ってカタカタやっけて行って、その後ろで車を押していく。結局、ものすごく寂しい行列。お祭りのやり方ではあるが、『昔はお賽銭も札で上がっていたがなあ。』という話も出て、今は1円玉をばら撒いて投げる人がいて、それを拾うのも大変。それで、非常に静かに移動していくから、もうちょっと派手にやれば人が集まるのではないかと思う。神様の行列だから、余り派手にしてはいけないのかもしれないが、神幸行列では、子どもたちが踊るひょっとこ踊りが一番人気がある。青井神社の奉賛会の打合せ会議があるが、そこに人吉市や観光部会から来てもらって、『市からはこういう支援ができますよ。例えばくまモンを連れて来ましょうか?鬼木の臼太鼓踊りとかに応援してもらって、もう少し賑やかにやりましょう。』といったことを会議で提案してもらえれば、神幸行列も賑やかになるのではないかと思う。くまモンを連れて来てお賽銭箱を持たせてやれば、少しはお賽銭も上がると思う。だから、余りにも寂しく、昼食を済ませて戻る時には、もう誰も沿道に居ないから、物静かに帰って行くばかり。せっきくの人吉球磨の神様の祭りだから、もう少し行政の方から応援してもらえれば、おくんち祭りも賑やかになるのではないかと感じている。」

観光部会(人吉市)「過去に、私どもは政教分離の問題があっているの、なかなかそちらの方には踏み込めないのが現状。基本は奉賛会という組織の中で盛り上げていただきたい。ただ、今、人吉球磨のお祭りという位置付けの中では、“家庭の日”という形で、人吉市の小・中学校が平日でもお休みになっている。球磨村とか近隣町村の方も、社会見学的な形で小学生を連れてきてもらっている。そういった、側面的に観客の方が増えていただくという形で盛り上げていただけないかなと強く思っている。ちょうど10月9日が土日になったときは非常にお客様も多いが、平日になったときに非常に少ないというのは現状なのかなと。それを地域の祭りとしてお願いしていければ、と思う。」

黒肥地委員「“家庭の日”ということで厚生労働省の方では有給休暇の促進ということで、肥後銀行のシンクタンクの地方経済総合研究所がいろいろアンケートを取って、人吉市の各事業所の有給…休む会社も、建設業なんかは祭りに出るということで会社自体を休んでいるが、有給休暇をいつ取るのか?などの調査を丸2年している。だんだん取得状況が上がる中で、人吉市はそうだけど、郡部にお勤めの方も居る。で、郡部がそういう『家庭の日』ではないものだから、自分の子どもは行列に出るが、

会社が休みではないから見に行けない。ということもあるので、もし行政でできるとしたなら、あるいはこの会議の意味合いとすれば、“家庭の日”を統一して行事の存続に繋がれば、と考えている。」

観光部会(広域行政組合)「今、黒肥地委員の方から言われた件については、広域行政組合の方で事務局を持って、今、人吉市の方が先駆的に、おくんち祭りを中心に、家族の時間づくりということで、3年くらい前から取り組んでいるが、それを郡部に広げようということで、“家族の時間づくり協議会”を立ち上げて、おくんち祭りばかりではなくて、湯前町であれば里宮さんの祭りにあてて休みを取るとか、人吉球磨全体で取り組んでいる。来月2日に担当課長による幹事会を行う。あえておくんち祭りでなくても、各町村の祭りにあてた家族の時間づくりに取り組んでいこうということで、立ち上げてやっている。」

鳥越委員「御奉仕されているのは一の神輿と二の神輿で、神様が乗っておられる神輿を多分引かれているのだと思う。遠野物語の遠野市もそうだが、基本的には神幸行列に関しては厳かに行くもの。その後ろに大人神輿やひょっとことかダンスチームがいるわけで、そこで楽しんでもらう。確かに賑わいは最近減っている。以前の資料を見ると湯前線から臨時列車を出して、人吉球磨中や椎葉村あたりからも見に来ていたということだから、休みの統一ができるというのも入口の最初の一步かな？と思うので、そうしていただくととてもありがたい。」

井田会長「本日、皆様からいただいた御意見等に基づき、今後、事務局と各部会の方で、短期的・長期的なことを含めたより具体的なプランにまとめて、具体的取組としてこの協定内容の中にどう取り組むか？現在の協定の中に挿入できるものがあれば挿入するし、新たに必要なものであれば新たなものを考える。という形で、それらのものについては事務局と担当部会の方にお任せして、その案を練ってもらうという形にしたいと思う。そして、次回の懇談会においては、そうした事務局と部会で協議した具体的な内容について提示してもらい、それらに対して各委員の皆様から御意見を賜ろうというふうに思っている。かつ、対処の仕様についてだが、今回は②と⑤も少し入ったが⑥についてであったが、残りの部分についてもまた何か協議できる要因があれば、それらについても事務局の方から提示してもらうという形にして、次回の第3回目の懇談会を迎えたいと思う。それでは本日の意見交換を主としたビジョン懇談会については以上で終了する。」

5 その他

【“日本遺産フォーラムin人吉”について、別紙チラシにより文化部会から案内】

以上、1時間59分3秒